


ふりがな 氏名	きむら ゆうか 木村 侑加	都道府県	大阪府	
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガールスカウト日本連盟 Stop the Violence ACTIVATE team ・ 大阪府公立中学校 教諭 			
私のESD活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジェンダーに基づく暴力に対すとりくみ ・ 中学校における人権・平和学習 			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

2011年より、ガールスカウト日本連盟の Stop the Violence 委員会のメンバーとして活動しており、初めての国際ガールズデーでは、それまでに取り組んでいたデート DV のキャンペーンに関して、その必要性を国連大学で訴えました。また、キャンペーン活動を通じて、自分の周りや、自分がいるコミュニティには、デート DV だけではなく、広くジェンダーに基づく暴力があることに気づきました。

2014年にインドのプネでガールスカウト・ガールガイド世界連盟が実施した、Stop The Violence Training Seminarに参加し、世界中の仲間と共に“Voices Against Violence プログラム”を受けました。文化によって暴力の形は様々であるけれど、根本的な原因や影響は一緒であるということを知りました。ジェンダーに基づく暴力を、人権という切り口で考えることで、日本の社会、そして自分のコミュニティの中で、当たり前のように存在するジェンダーに基づく暴力に、自分の力で気づくことができるようになりました。現在は、少女と若い女性の権利への声をあげていくために、“Voices Against Violence プログラム”を日本連盟 ACTIVATE メンバーとして、日本全国のガールスカウトトレーナーやリーダーに実施し、日本全体で若い世代にプログラムを実施することのできるリーダー、トレーナーを増やしています。

先日、韓国の慶州で行われた国連広報局と様々な NGO が共催する 66th UN DPI/NGO 会議(SDG4:Quality Education がテーマ)に参加し、ガールスカウト世界連盟の代表として、また、グローバル市民の一員として、少女と若い女性の声を代表してスピーチを行いました。ジェンダー不平等と、ジェンダーに基づく暴力に反対の声をあげ、またそれに関わる教育、特にノンフォーマル教育の重要性を訴えました。

○少女に対する暴力をなくすキャンペーン(STV) <http://www.girlscout.or.jp/activities/project/stv/>

○国連広報局/NGO会議 リポート <http://www.girlscout.or.jp/report/20160020349/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体(地域や日本国内、国際)の発展にどのように貢献したいと思えますか？

ガールスカウトという運動体の中で、ジェンダーに基づく暴力に取り組んでおり、女性の中で、Voices Against Violence プログラムに取り組む機会が多くありました。しかし、66thUN DPI/NGO 会議で、様々な課題に取り組んでいる人に出会い、私たちとは異なる視点を持っている人と関わっていくことが、自分たちの活動を発展させ、深めていく上で重要だということに気づきました。今後は、様々な性別の違いを超えて意見や考えを受け入れながら、Voices Against Violence プログラムを多様な人が取り組んでいけるようなプログラムにしていきたいです。ジェンダーに基づく暴力は世界中に様々な形で存在します。この課題に取り組んでいく際に、異なる立場の人たちも一緒に巻き込み、“考えていかなければならない”という意識、また、この問題に地域レベルで取り組むことが、事実、グローバルな問題(SDG)に取り組んでいるという2つのことを広め、ESD 活動をさらに深めていきたいと考えています。その他、ガールスカウトで、中・高校生のプロジェクト・マネジメントの力をのばすトレーニングにも関わっていた経緯より、その取り組みにもより力を入れ、中・高校生と実際に関わる中で、活動の場を広げていきたいです。

さらに、その他の課題(特に、人権・平和学習)に中学校の教育現場で引き続き取り組み、教員としてのフォーマル教育、ガールスカウトリーダーとしてのノンフォーマル教育、その両方から ESD 全体の発展の可能性をみつけていきたいです。